【音声コンテンツ】

J〇官能小説家とその母

～担任教師の凌辱家庭訪問～

© 2017 survive. All rights reserved.

あらすじ

地味で物静かな渡辺結衣はクラスで「図書委員」と呼ばれている。
母子家庭で生活は貧しく、働き詰めの母に代り家事をしながら学校へ通っている。
遊ぶ時間もなく、彼氏はもちろん同世代の友人もほとんどいない。

一方、母の香織はスナックを経営し、女手一つで結衣を育ててきた。
再婚はしなかったが、気に入ったスナックの常連客をたまに家に連れこんでは関係を持っている。
結衣は苦労している母を少しでも楽にしてやりたいと、母に内緒であるバイトを始める。

それは、男性向けの官能小説を書くバイト。
携帯一つで文章を書き寄稿でき、匿名性が高く学校にバレることもない。
一番に在宅でできるということは、忙しい結衣にとても大きなメリットだった。

あるとき、結衣が官能小説を書いていることが担任にバレたことで母娘の日常に変化が起きる―。

登場人物

結衣の担任の国語教師

勤勉で地味な結衣の性に興味がある一面を知り、性欲から結衣にイタズラしてみたいと思うようになる。
結衣の母親(香織)が経営するスナックの常連で、何度か性行為したことがある。

渡辺結衣

地味で物静かな女子校生。母と二人暮らし。
学校では成績優秀でクラスの皆からは「図書員」と呼ばれている。
物静かな性格から友達はほとんどなく、いつも小説を読みふけっている。
幼少の頃から、酔った母が店の客と自宅で性行為をしているのを日常的に目撃しており、性に対する知識や興味は同学年の女子よりも並外れである。
スナックで働く母のことを思い、家計の足しにしようと官能小説を書くバイトをしている。（学校はアルバイト禁止。）
図書委員をしており、クラスではあまり目立たない存在。

© 2017 survive. All rights reserved.

担任の教師に対して、父性を感じており、ひそかに好意を持っている。

渡辺香織（結衣の母）

45歳。結衣の母親で10年前に夫と離婚し、女手一つで結を育てている。夜は自宅兼スナックでママをやっている。（スナックの2Fが居住スペースになっている。）

結衣の成長とお酒が楽しみで、たまに気に入ったスナックの客を家に連れ込んで関係を持っている。

結衣の担任とは少し前から体の関係があるが、本番行為は行っていない。

（担任に対してはどちらかというとSな態度を取っている。）。

1.　母子家庭の風景

結衣、学校から帰宅

結衣　「ただいまー」

香織　「おかえり、遅かったね結衣」

結衣　「うん、図書委員の仕事が長引いちゃって…」

香織　「そう、頑張るわね。母さんこれから店開けるから下に降りるわ。晩御飯はカレー作っといたから。」

結衣　「うん、ありがとお母さん」

香織　「じゃあ行ってきまーす」

結衣　「いってらっしゃい」

© 2017 survive. All rights reserved.

時間経過

香織が経営するスナック店内

香織　「あら、先生まだ飲むの？もう先生だけよ…？」

香織　「飲んじゃ悪いのかって、そんなことはありませんけど…大事な娘をお任せしている担任の先生ですもの。飲み過ぎはお身体に毒よ。」

香織　「ねえ、お酒もいいけど、ストレス解消なら、それよりもっといいことがあるんじゃない？　もうお店も閉めるし、上へ行かない？今日もアレ、したげよっか？」

2.　教え子の母の淫口

香織、教師を連れて自宅へ入る

香織　「しぃーっ、結衣が寝ているから、静かにお願いね」

香織、教師のベルトを外し、ジッパーを下ろす

香織　「まあっ…すごおい…もうこんなにカチカチ…ずっと我慢してたの？　かわいそうに。」

香織　「すごく熱いわ…触ってるだけで火傷しちゃいそう…ビクビクして…このまま手だけでも、すぐ出しちゃいそうね」

香織　「なあに、ちゃんと言ってくれなくちゃわから

© 2017 survive. All rights reserved.

ないわ。ほら、どうしてほしいの？」

香織「……はい、よく言えました。ご褒美に、ほら、先生の大好きなおっぱいで、してあげるわ」

香織「んっ…ん、っ…すっごぉい…熱い…おっぱいの中でドクドク脈打って…はぁっ、んっ…私も、熱くなってきちゃうわぁ♡」

香織「んふっ、んっんっ、先生、おっぱい、気持ちいい？　私の、Ｈカップの、ムチムチおっぱいでっ♡んっ♡いっぱい、気持ちよくなってぇ♡」

香織「んん？こう？これがいいの？左右別々に、ぐにぐにって、おちんぽ揉み揉みするのがいいの？いいわよ、いっぱいしてあげるわ♡あは、これぇ♡乳首がコリコリ擦れて…私も、気持ちよくなっちゃうわ♡」

香織「はあんっ♡あっ、んっ♡お汁がいっぱい溢れて、私のおっぱいぐちゅぐちゅになっちゃってるの♡はあ♡エッチな匂い♡私まで、おかしくなっちゃいそぉ♡」

香織「あっ、んっんっんっ♡ああっ♡先生、イキそう？イっちゃいそうなの？おっぱいでおちんちん揉み揉みされて、イっちゃうのね♡いいわ、出して♡私の、教え子の母親の顔に、いっぱいぶっかけてええぇ♡」

香織「あはぁあああああ♡」

© 2017 survive. All rights reserved.

香織　「はぁん♡くちゅ♡ぺろっ…すごい量♡溜まってらしたのね♡まだまだ、いっぱい搾り取ってあげるわね♡」

香織　「んっんっ♡うふ♡かわいいおちんちん♡食べちゃおうかしら♡あーん♡」

香織　「んちゅっ♡ぺろっ、ちゅぷ♡れろれろぉっ、ちゅるるっ♡おっぱいでしごきながら、先っぽ吸われるの気持ちいいでしょ♡亀頭の割れ目ちゃんのとこ…舌で穿ってあげる♡んちゅっ、ぐりぐり、れろぉ♡」

香織　「あら、先生腰が動いちゃってるわ♡」

香織　「いいわ♡他ならぬ結衣の先生だから♡特別にフェラしてあげる♡んぶっ、ぢゅるるるるっ」

香織　「んんぅっ、じゅぶじゅぶっ、じゅるっ、あはぁ♡」

香織　「んじゅっ、ぢゅぢゅっ、ぶぷっ♡れろれろれろ、んれろぉ♡ほら、割れ目の裏筋舐めながら吸われるの、気持ちいいでしょ♡んふ♡ほおら、ぐりぐり♡ちゅぅううっ♡んふっ、ちゅぶっ、ちゅるるっ♡」

香織　「ぢゅぢゅっぢゅるるるっ、れるれる、ちゅるるるっ♡んはっ、おひるが、あふれてきへ♡ひゅごくえっひなあひ♡おいひい」

（※「お汁が溢れてきてすごくエッチな味♡美味しい♡」と言っています）

© 2017 survive. All rights reserved.

香織　「んぶっ、んっんっんっ、ぢゅぶっ♡へんへ、イキほうらのね…？んちゅっ、いいわ、いっはい、いっはいらひて♡濃いザーメンいっふぁいのまへへ♡んちゅっ、ぢゅぶぢゅぶっ、ぢゅるるるるっ、ぢゅうううぅぅうううっ♡」

香織　「んぶぅっ、んぅうううううっ♡♡♡…んぐっ…ごくっ…ごくん…」

香織　「はぁっ…♡んふ♡美味しかったわ♡」

香織　「…えっ？　だぁめ、これ以上は無しの約束でしょ？…だって、隣で娘が寝てるのよ？」

香織　「わかってくれた？　…また、いつでも来てね。あ、来週、中間テストなんでしょ？　結衣、勉強は問題ないと思うけど…あの子、私には遠慮するところがあるから、何か悩んでないか心配だわ…いろいろ、相談に乗ってあげてね、せ・ん・せ♡」

3.　結衣の自慰

自室に入る結衣

結衣　「さぁ、続き書くかぁ…えっと、『沙織は、娘の教師との背徳の行為にのめりこんでいた。もう、彼の命令には逆らえず、今日も一日中…』あれ…あのバイブの小さいやつってなんていうんだっけ…えっと…」

時間経過

© 2017 survive. All rights reserved.

結衣
「ふぁ～あ、４０００字くらいは進んだかなぁ…眠くなってきちゃった…ちょっと、休憩～」

結衣
「んん…はう…むにゃむにゃ…」

時間経過

結衣
「んん…ん…？　あれ、真っ暗…今何時かな…？わ、もう夜中の二時だ…寝すぎちゃったなぁ…」

結衣
「ん…？　お母さんの部屋で、何か声が…」

香織と教師が隣室で性行為中

香織
「んふっ、あぁんっ♡だめよ、結衣に聞こえちゃう♡んっ、ぁっ、あっ、あっ♡」

結衣
「お、お母さんったら…またお客さんと…！？　」

香織
「ぁっ、あぁんっ、もっと舐めてぇ♡先生っ♡」

結衣
「っ…！　…せんせい？　えっ、内田先生！？　なんで…先生が、お母さんと…」

結衣
「やだ…変な気分になってきちゃった…ちょっと…しちゃおうかな…・」

結衣
「んっ…ふぅっ…胸…おっきくなりすぎだよね、巨乳だと感度低いとかっていうけど…全然そんなこと…ないしっ…」

結衣
「はぁっ…ちくび、すきぃ…服の上から擦るの、んっ、ビリビリってきて…すごい、ぃ…っ」

© 2017 survive. All rights reserved.

結衣「んっ♡…先生…せんせぇっ…いつもあんなに優しくて…真面目なのに…っ、お母さんの、お、おまんこ…舐めてる…」

結衣「…もう…こんなにぬるぬるになっちゃってる…んっ…ここ…舐められちゃうのって…どんな感じなんだろ…」

結衣「んんっ、♡クリ、指でするだけでっ…電気がっ流れるみたいなのに、っ…舐められ、てぇっ♡ちゅうって吸われたら…♡どうなっちゃうのぉっ…♡はぁんっ♡」

結衣「ちくびコリコリしながら、クリ転がすの、いぃぃっ♡んっ、すぐ、イッ、イっちゃうぅぅっ♡せんせ♡せんせぇえぇっ♡」

声を聞かれないように絶頂する結衣

結衣「ひぅっ♡んんんぅぅぅぅぅっ♡♡♡」

結衣「…はぁっ…もっとしたくなちゃった…」

結衣「ナカ…入れてみようかな…まだちょっと怖いけど…」

結衣「んっ…いっ、たっ…指2本でこんな痛くて…ここに…オチンチンなんて入るのかな…」

結衣「でも、小説でお金もらってるし…ちゃんと、自分が膣内でイけるようにならなきゃ、だよね…・・」

結衣「…先生、オチンチン硬くしてお母さんに挿入てるのかな…」

結衣「私のこんなところ見たら、先生…なんて言うかな…？もし、いま先生が私の声に気づいて、ここに来たら…」

© 2017 survive. All rights reserved.

結衣　「はぁっ…んっ…♡なんか、ぞくぞくして、きたぁっ♡先生にオナニーしてるとこ、見られ、ちゃってぇ…♡はぁぁっ…♡」

結衣　「それでっ、先生に…お、おちんぽっ…入れられちゃったらぁっ…♡あぁんっ…先生のおちんぽがっ、処女膜突き破ってっ…奥に、ずんずん、きてぇえぇっ♡」

結衣　「あっ♡あっ♡すごっ…なんか、きてるぅっ♡気持ちぃ、ナカ、膣内気持ちいいよぉっ♡やだっ、手、止まんないっ♡あはっ、んっ、あっ♡先生っ♡先生、の、おちんぽっ♡おちんぽしゅごいのぉおおっ♡」

声を聞かれないように絶頂する結衣

結衣　「あひっ、あはあぁあああっ♡♡♡」

結衣　「は、ひ…すご…初めて…膣内でイっちゃった…こんな凄いの…初めてぇ…♡」

4.　放課後の凌辱

教室で授業を受ける結衣

結衣　（アからエの選択肢から選んで、空欄を埋めよ…か。）

結衣　（よし、全部解けた！満点間違いなし！…まだずいぶん時間あるな～…）

結衣　（そうだ、小説の続き書いちゃお…スマホスマホ…）

© 2017 survive. All rights reserved.

結衣　「きゃっ！　せ、先生！　…い、いえこれは…え？　カンニングなんてしてません！　え、スマホ没収ですか！？　そ、そんな！」

結衣　「うう…わ、わかりました…絶対、中、見ないでくださいね…！」

放課後、教室で待っている結衣

結衣　「放課後、残ってろって…なんて怒られるんだろう？…先生、スマホ返してくれるかな…」

結衣　「あ、先生、テスト中スマホ見たのは、ほんと反省してて…。　…え？　返せないって…どういうことですか？　あっ、それ私の小説！？見ちゃったんですか！？」

結衣　「ひっ、ひどいです！　勝手に中見るなんて…。　その小説は、バイトでやってて…。　え…退学！？　そ、そんな、待ってください…！」

結衣　「確かに校則でバイトは禁止されてますけど、スマホで小説書いて送るだけだし、勉強と両立もできています！」

泣き始める結衣

結衣　「私、ただ…お母さんに楽させてあげたくて…うううっ…っ、ひっ…」

結衣　「お、お願いです…私が退学になったら、お母さんすごく悲しむと思います…も、もう書きませんから…許してください…」

結衣　「え…？　黙ってて、くれるんですか…？　あ、ありがとうございます！」

© 2017 survive. All rights reserved.

結衣　「小説の内容は、全部想像で書いてるだけですから…本当に悪いコトは何もしてません！」

結衣　「セックス…ですか？　そ、その…まだ…したことないです…処女…です…」

結衣　「はっ…？　な、何言ってるんですか…！？　先生と、ここで！？　そ、そんなの…ダメに決まってるじゃないですか！」

結衣　「…いや、勉強って言われても…。　…た、確かに先生に勉強をおしえてもらうのは、普通、ですけど…」

結衣　「……これで、絶対バイトのことを黙っててもらえるなら…」

結衣、教師69の状態に

結衣　「こ、こう、ですか…？　え、これじゃ…は、恥ずかしいとこ…先生に丸見えに、なっちゃいます…」

結衣　「は、はい…んっ…？　男の人のベルトって、どうやって…あ、こう、かな…きゃっ…う、わあ…こ、これが…」

結衣　「んひっ！や、やだっ…せんせっ…そこ…触らないで、ぇっ…」

結衣　「ひぅっ…うぅ…わ、わかりました…んっ…こ、こう、れふか…？んちゅっ…れろっ…」

結衣　「んふぅっ…んっ…へんへ…らめれすぅ…そこ、そんなぐりぐりされたら…っ、おひんほっ、うまく舐められにゃ…んひっ…指、入れちゃだめええっ♡」

© 2017 survive. All rights reserved.

結衣　「はんんっ、んちゅっ、ぢゅぶぶぶっ、んふぅうっ…んっ♡…ぷはっ、やら、せんせぇ…掻き混ぜちゃ、らめえぇ…おかしく、なるのぉっ♡」

結衣　「ひゃひっ♡はぁあんっ♡らめ、ナカぐちゃぐちゃしながら、クリ舐めたららめぇえっ♡すぐ、すぐイっちゃうから、あ、あ、あっ♡いく、いくぅううっ♡」

結衣　「ひぁっ、はひぁあああぁあああっ♡♡♡」

結衣　「あふっ…んっ…せ、せんせぇ…♡」

結衣　「…い、挿入れるんですか！？　で、でも私…っ…う…さっきは、先生をイかせられなかったけど……ど、どうぞ…きゃああっ」

正上位の体制に

結衣　「ううっ…あ、あんまり見ないでくださいぃ…こ、これが一番痛くない体位…？本当ですか？」

結衣　（んんっ…先生の熱いの、入り口を擦ってるぅ…こ、これ…い、挿入れられちゃうんだ…）

結衣　「んひっ、ひぁあああっ…あっ、せんせ、痛いぃ…ゆ、ゆっくり、してぇぇ…っ」

結衣　「んっ…ん〝んっ…せ、せんせ、あつ、くてぇ…っ、おなか、焼けちゃうぅ…っ」

結衣　「んひぁあっ、あっ、あ〝っ、らめっ、速くしちゃらめえぇっ♡いだっ、いだいぃいっ♡痛いのぉっ♡んっ、ぁあんっ♡」

© 2017 survive. All rights reserved.

結衣　「うっ、嘘っ、感じてなんかないぃ…痛い、だけだもんっ…んっ、んひっ♡あっ♡」

結衣　「んぁああっ♡お、奥だめぇっ♡それ、ずるいぃっ♡ふあっ、らめっ、きもちよく、なっちゃうぅ♡ふぁあんっ♡」

結衣　「あっあっあっ♡きもちぃ♡きもちいのぉ♡おちんちんがっ♡ごりごり擦れてぇっ♡私、処女なのに、気持ちよくなっちゃってるよぉっ♡せんせぇっ♡」

結衣　「はひっ♡激しいっ♡らめぇえええっ♡結衣のおまんこ、壊れちゃうよぉっ♡あんっあっあっ♡なんか、きちゃう♡せんせっ、ぎゅってして？　こわい、こわいよぉおおっ♡結衣、おかしくなっちゃうのぉおおっ♡」

結衣　「あぁっ♡ひぁあああああぁぁあっ♡♡♡」

結衣　「んひっ…んぅうっ…♡せんせ…しゅご、かったぁ…」

5.　家庭訪問レイプ

自宅で会話する結衣と香織

結衣　「じゃあ、図書館で勉強してくるね」

香織　「今週はテスト期間だもんね。でも、あまり遅くならないように帰るのよ。」

結衣　「うん。行ってきまーす」

香織　「はあい、行ってらっしゃーい」

香織、スナック店内を清掃中

© 2017 survive. All rights reserved.

香織　「んーっ、いい天気の日は掃除に限るわね。そうだ、カーテンも洗っちゃおうかしら」

香織　「あら？　すみません、まだお店は…まあ、先生？　どうなさったの？」

香織　「家庭訪問…？そ、そんな急に…？　ど、どうぞ、お座りになって」

香織　「え…結衣が問題を！？　…あの子がアルバイトを…？」

香織　「え？　それ、結衣のスマホじゃありませんか！どうして先生が…え、このサイト…？　『狂い咲く淫らな花園』…？官能小説の投稿サイト、ですか…？」

香織　「『教師と人妻～背徳の秘め事～』『沙織は熟れた女陰から蜜を滴らせ、娘の教師である男の男根を…』い、いやだ、なんですか、こんな、卑猥な…」

香織　「え！？こ、これを結衣が書いたっていうの！？そ、そんなのありえないわ…」

香織　「わ、私と先生の行為をモデルにしてるっていうの…？　あの子に聞こえないように注意していたのに…」

香織　「え、た、退学！？　ちょっと待ってください！確かに学校がバイト禁止なのは知っていますけど、いきなり、そんな…」

© 2017 survive. All rights reserved.

香織「っ、お、お願いよ…私と先生の仲じゃない…ね？　あの子だって、きっとお金に困っている私のためを思ってのことだわ…ほんとに、結衣は、いい子なのよ…だから、ね？　私からちゃんと言って、やめさせるから…」

香織「っ…そ、そんな、じゃあ何て言えっていうの…え？　わ、わかったわ…お、お願いします…どうか…」

香織「お、お願いします…黙っててくれるなら私…な、何でもします、から…」

香織「わ、わかりました…ど、どうぞ、お二階へ…」

香織「え！？ゆ、結衣の制服を、私が着ろって！？な、何でそんな…ひ、ひぃっ…わ、わかり、ました…」

香織「うう…む、胸が苦しい…スカートもぱつぱつで…下着が見えちゃうわ…」

香織「ええ！？そ、そんな恥ずかしい格好…わ、わかりましたわ…壁に手をついて、お尻を突き出して…こ、こうですか…？」

香織「あひぃっ！？　や、やめっ、やめてぇっ！　痛っ、いやあっ、痛いのぉっ」

香織「うう…こんなの…嫌ぁ…えっ！？　い、嫌だ、下着を引っ張らないで…んんっ…食い込んでっ…」

© 2017 survive. All rights reserved.

香織「んんんっ、い、嫌あっ、指ぃっ…指入れちゃ…ぁっ、だめっ…掻き混ぜちゃ、だめえぇ…♡」

香織「違います、私、Ｍなんかじゃ…ぁあっ、た、叩かないで…っ叩きながら、ナカ、ぐりぐりしちゃ、だめぇえっ♡んひぃいっ♡だめっ、だめえぇっ」

香織「あはぁあああああっ♡あひっ、ひぃいいっ、っ、んふぅぅっ…♡」

香織「…え？…ま、待って、先生っ、お願い、ゴム、ゴムをつけて、だめ…っ」

香織「んひっ、あぁあああああっ♡は、入ってる…生ちんぽ…入れられちゃった、ぁ…♡」

香織「ひっ、あっあ゛っ♡ま、待って♡いきなりぃ♡そんな、激しくっ♡ああんっ、だめっ、あっあっ♡」

香織「あおっ、お、おぐっ、抉られてるっ♡そ、その角度だめっ♡奥にごりごりきてっ♡おかしくなるからぁっ♡」

香織「あひっ、お♡おおっ♡これ、すごいぃ♡おちんぽ、大き過ぎて…子宮が潰れちゃうの、ぉっ♡おおっ♡」

香織「あひぃいんっ♡い、いま叩かれる、とっ♡ひぎっ♡アソコが、勝手に締まっちゃう♡ひぃっ♡い、いぐっ♡イグゥウウ♡」

© 2017 survive. All rights reserved.

香織　「ひぃいいっ♡アソコが壊れてしまいそぉ♡おっ、ぉおっ、おほぉっ♡」

香織　「だめっ、中に出すのはだめぇえ♡亀頭がっ、子宮こじ開けちゃってるっ、い、いま出されたらっ♡孕むっ、孕んじゃうからぁ♡先生の、赤ちゃんできちゃうのぉおお♡」

香織　「あひっ、ぁぉおおぉおおっ♡♡♡…あぐっ…お〝っ、っ…な、ナカに出てる…熱いの、い、いっぱいぃ…♡」

香織　「うっ…うぅぅ…こ、これで…娘のことは、許してくれる、のね…？」

6.　図書室セックス添削

放課後の図書室

結衣　「先生…？」

結衣　「あ、あの…大丈夫なんですか？図書室使っちゃって…私たちのお勉強に本、使いませんよね…？」

結衣　「は、はい…鍵、かけました…えっ…ちょ、ちょっと、どこに連れていくんですか？」

結衣　「こ、こんな書架の間でなんて…」

結衣　「じゃぁ先生、早速新しく書いた小説の一文を見てもらっていいですか？」

© 2017 survive. All rights reserved.

結衣「う～ん…この表現だとフェラのとき、女性が興奮していないように感じますか？　でも、フェラしてる女性はそもそも気持ちよくないんじゃないですか？」

結衣「え！？　や、やってみるって…ここで、ですか…？　…リアルに書けるようには、なりたいですけど…」

結衣「わ、わかりました…お願い、します…」

結衣「んちゅっ…んっ、くちゅ、んっんっ…ぷは、先生…私、ちゃんとできてます…？」

結衣「きゃっ、せ、せんせ、何を…っ、んっんぶぅっ！」

結衣「んんぐっ！？ぐぼっ、んぐぐっ、ごっ、おごぉっ！？んはぁっ…へ、へんへ…こえ、くりゅしいっ…んぎっ、待って…んぐぅうううっ」

結衣（ううううっ…苦しいよぉっ、喉の奥どすどす突き刺されてっ、吐き、そぉお）

結衣「ぐっ、ごっごっ、んぼおっ、ごふっ！んふぅうっ、おごっ」

結衣（息、息できないぃ…あたま、ぼーっとして…ぇ…♡あ、何か、やばい…私、トンじゃいそぉ♡）

結衣「んごっんごっ♡ごぐっ♡ふーっふーっ♡おごっ、ぐっ、んふぅっ♡」

© 2017 survive. All rights reserved.

結衣　「んっんっごっごっごっ♡えぶっ♡んぐぅうっ♡ごっごっごっ♡」

結衣　「んごっ♡んぶぅうううっ♡♡♡」

結衣　「ごぼっ、げほげほげほっ…は…はひ…ひぬかと、おもいまひた…」

結衣　「はぁっはぁっ…でも、何となく、わかりました…♡一生懸命フェラすると、何か頭ふわふわしました…♡」

結衣　「…え…と、ほか、には…」

結衣　「『体位がワンパターン』…ですか…確かにそうかも…だって、やったことないもん…」

結衣　「ええっ…き、騎乗位…ですか…？うう…い、いきなりこれ…恥ずかしいですっ…」

結衣　「…ぬ、濡れてなんか…ないですっ…」

結衣　「んっ、やぁっ…そんな…くちゅくちゅしないで、くださいぃっ♡」

結衣　「じ、じゃあ、挿入れますね…♡」

結衣　「んんっ♡んぃいいいっ♡…あっ…はいっ、ちゃいました、あ…♡」

結衣　「んあっ♡こ、これ、いきなり、奥に、刺さってぇっ♡…はひっ、ちょっと、動いただけでっ♡奥、抉れてぇっ…♡」

© 2017 survive. All rights reserved.

結衣「私が、動くんですか…？は、はい…脚、立てて…んっ、んんっ♡…はぁっ♡これ、すご、ぃぃ…♡」

結衣「あんっ、あぁんっ♡ここ、気持ちいいですっ♡あっ、あっ♡ぃいトコ、擦れてぇっ♡腰が、止まんないですぅっ♡ぁひぁっ♡ぁあんっ♡」

結衣「私っ…学校の、図書室でぇ♡放課後に先生とセックスして♡自分で、腰振っちゃってる、よぉっ♡」

結衣「あっ！あっあっあっ♡しゅごいぃっ♡下からっ、突き上げられてぇっ♡突きさされてりゅっ♡はひっ、あっあっあっ♡ぃ、いぐっ♡奥押し潰されりゅうっ♡いぐっいぐっうううっ♡」

結衣「あひぁあああああああっ♡♡♡」

結衣「あっ…♡あっ…♡きじょう、ぃ…しゅごぃ、れす…♡」

結衣「ふえ…？ほ、他の体位、ですか…？　あ、あの…対面座位っていうの…やってみたいです…♡」

結衣「は、はぃ…じゃあ、このまま、こう、ですか…？ん…なんか、恥ずかしい、ですね…顔…近くて…」

結衣「んえ…キス、ですか…？うう…は、はぃ…んっ…んちゅっ、くちゅ…」

結衣「んちゅっ、ん！？んふぅうううっ」

© 2017 survive. All rights reserved.

結衣「んぐっ…ちゅぷっ、んんんっ、んはぁあっ…せんせ…ずるいれす…急に、挿入れちゃ…♡」

結衣「はぁっ♡あぁんっ♡待って、まだ、ゆっくり、い…♡イったばっかで…敏感に、なってる、からぁ♡」

結衣「んっ！？や、やだ…廊下に誰か…っ、せんせ、動いちゃらめぇえっ♡…はひっ♡皆に、き、聞かれちゃうよぉおっ♡」

結衣「はぷっ…んんぅっ♡くちゅ♡ぴちゅ♡ぷはぁっ、はぁっ♡」

結衣「せんせ♡きしゅ♡しながら♡おまんこ突かれりゅの、しゅ、しゅごいれす♡」

結衣「はんっ♡あぁんっ♡せんせぇ♡ぎゅーって、ぎゅーってしてぇっ♡んっんっ♡せんせ、しゅきっ、しゅきぃいっ♡こんなの、しゅきになっちゃうぅ♡結衣、先生のものになっちゃうぅうう♡」

結衣「ま、また、イっちゃいそぉ…♡おねがい、もういっかいキス、してぇ♡キス、したまま♡イかせてぇっ♡」

結衣「くちゅ♡ちゅるるるっ♡んはっ♡しぇんしぇぇっ♡はぷっ♡んふぅうっ♡ちゅうううっ♡」

結衣「んぅっ、んぅうううぅうううっ♡♡」

結衣「ん、はぁっ…♡はふっ…♡は、はい…お、お勉強に、なりました、ぁ…♡」

© 2017 survive. All rights reserved.

7. 凌辱カラオケ

自宅の玄関前

結衣　「お母さん、大丈夫？　なんだか今朝は元気がないみたい…」

香織　「そんなことないわ…大丈夫よ。あなたこそ、テストも終わったんだし図書館にでも行ってきたら？」

結衣　「うん…じゃあ、ちょっとだけ行ってくるね。夕方には帰るから」

香織　「うん、いってらっしゃい」

香織　「はあ…私のためとは言え、あの子があんなものを…」

香織　「せ、先生っ…また、いらしたの…」

香織　「そんな…あの話は、あれ一回きりだって」

香織　「ず、ずるいわ…そんな、いつまでもこんなこと、続けられないわ…」

香織　「た、楽しんでるわけないでしょっ…！　あんなひどいやり方…」

香織　「そ、それは…！？あのサイトから印刷したんですか！？わ、わかりましたから、ばら撒いたりしないで…！」

© 2017 survive. All rights reserved.

香織　「マイクのスイッチを…？　どうしてそんなことを…？」

香織　「こ、これを朗読！？　そ、そんな…もし誰かに聞かれたら…」

香織　「わ、わかったわ…」

香織　「『教師は沙織の腕をつかみ、ぐっと体を引き寄せた。熟れた女の芳香が鼻腔をくすぐる。「あっ、いけませんわ、先生…娘が起きてしまいます…」教師はにやりと下卑た笑みを浮かべ、既にしとどに蜜を垂らしている沙織の割れ目に手を伸ばした…』」

香織　「ち、ちゃんと読んでるじゃありませんか…そんな、感情を込めてって言ったって…わ、わかりました…」

香織　『す、既に硬く充血しているクリトリスを、教師は指先に挟んで弄ぶ。「あっ…ああん…そこ、弱いの…」沙織はだらしなく脚を開き、むしろ乞うように腰を揺らした。』」

香織　（い、いやだわ…これって本当に私と先生みたい…こんなの読んでたら…濡れてきちゃう…）

香織　「『真珠のような…肉豆をぐりぐりと押し潰されるたびに…沙織は甘美な電流に苛まれて全身を痙攣させた…娘の教師と背徳の行為に耽っていると思うだけで…沙織の体はまるで媚薬を飲んだかのように…く…狂おしく火照り…たった二本の指先

© 2017 survive. All rights reserved.

だけで容易に絶頂へ導かれてしまう…グロテスクな貝のような熟れ切ったヴァギナからは…透明な飛沫が断続的に迸り…沙織の下肢はまるで…し…失禁したかのように濡れそぼっていた…「あっ…せ、先生…もう、私…我慢できませんわ」』」

香織　（あっ…もうだめ…本当に我慢できない…おまんこが疼いて…足が震えちゃってる…）

香織　「せ、先生…お願い…こ、こんなの、もう無理だわ…」

香織　「きゃっ、い、いやぁあああっ」

香織　「そ、そんなっ、マイクでなんて、だめっ…お願い、そんな大きいの、無理、ひ、ひぎぃいいいっ」

香織　「おお〝っ嫌っ、動かさないでっ♡アソコが裂けちゃうっ♡お〝っほっ♡アソコが壊れちゃう♡」

香織　「嫌ぁっ♡音量を上げないで、恥ずかしいっ♡娘の書いた厭らしい小説読んで、ぐちょぐちょに濡らしちゃってたのがバレちゃうの♡」

香織　「はお〝っおっあ〝っ速くしないでぇっ♡マイクがゴリゴリって奥に当たってるの♡何十人ものオジサンたちの唾液だらけのマイクで、子宮口攻められちゃってるのぉおっ♡いっ、いぐっ、いぐぅううっ」

香織　「はぉおおおおっ♡♡♡」

© 2017 survive. All rights reserved.

香織　「んほっ…んっ、んお゛っ…えっ…な、何？」

香織　「こ、この席でなんて…鏡に映ってる姿が…丸見えで…そ、そんな…自分で動くなんてむ、無理…」

香織　「そ、そんな、喜んでなんて…ち、違…おちんぽ…欲しくなんか…あん…おちんぽ擦りつけないでぇ…っ」

香織　（ああ…おちんぽ、硬くて熱いおちんぽぉ♡恥ずかしいのに…もう、ナカがじんじんして、欲しくて、欲しくてぇえっ）

香織　「えっ…ど、どうして…ここまでしておいてお預けだなんてっ…」

香織　「…おちんぽ、おちんぽください♡このはしたない雌犬の、ぐちょぐちょおまんこに…ご主人様のぶっといちんぽブチ込んでぇえ♡あたま馬鹿になるまで、めちゃくちゃに犯してぇえっ♡」

香織　「んほっ、はぉおおおおっ♡おちんぽ♡おちんぽ来たぁあ♡すごいの♡奥まで届いて、すごいのぉお♡」

香織　「おほっ♡子宮口にぐりぐり♡だめ♡おかしくなる♡んひっ…」

香織　「お、お願いぃいっ♡動かないでぇえっ♡ぉっ、お゛っ♡私、笑ってるぅ♡お店でっお客様が座る

© 2017 survive. All rights reserved.

席でぇっ♡おちんぽに串刺しにされて、悦んじゃってるのぉおおっ♡」

香織　「ごめんなさぁいっ♡淫乱雌犬でごめんなさぁああいっ♡私っ♡もうご主人様のおちんぽがないとっ、生きていけないのっ♡お願い、おちんぽっ、抉ってえ♡おまんこぶっこわしてぇえっ♡んほぉおおっ」

香織　「お〝っ♡んぉおおおおおっっ♡♡♡」

香織　「アグッ…ひっ…んひぃいいっ…」

8.　母娘どんぶり

自宅に二階へ向かう香織と教師

香織　「え…目隠しして、プレイ、ですか？　は、はい、いいですわ♡ご主人様♡」

香織　「ちょうど結衣も出かけてるはずだから、安心ね…」

香織　「はあっ…い、家の中とはいえこんな…全裸で、目隠しされたまま歩くなんて…興奮、しちゃう♡」

香織　「…？　先生、この部屋…なんだか、人の気配が…」

香織　「んんぅっ！？んちゅ、ちゅうぅっ、んんっ♡」

© 2017 survive. All rights reserved.

香織　（だ、誰…？　柔らかい唇…先生じゃ、ないわ…お、女の人…？）

香織　「ぷはっ…だ、誰なの？　ここは、わ、私の家の中なのに…」

香織　「な、何…？きゃあっ」

香織　「あっ…そ、そんな所、舐めないで…！　あ、あなた…だ、誰なの…？　ご主人様は…どこ…？」

香織　（お腹に…おっぱいが当たってるわ…やっぱり女だわ…だ、だからなの…？　クンニ…すごく…上手っ♡）

香織　（もうこの際、誰かなんて関係ないわ。仕返しよ）

香織　「んっ、ちゅっ…じゅるるっ、ちゅるるっ」

結衣　「んんっ♡れろれろ♡んふぅううっ♡んっんっ♡ちゅるる♡んはぁぁっ♡」

香織　「じゅるるっ♡んはっ♡ぁおっ♡そ、それすごい♡クリトリス押し潰しながらなんて♡ずるいのぉ♡感じちゃう♡」

結衣　「んふぅううっ♡んっんっ♡ちゅくっ♡ちゅちゅるっ♡」

香織　「ちゅるるるっ♡ぷはっ♡んはぁあっ♡いく、すぐイっちゃうの♡あ　なた、上手すぎよぉ♡」

結衣　「ちゅっちゅ、じゅるるるっ、じゅううっ、ちゅるるるるっ♡」

© 2017 survive. All rights reserved.

香織　「んぉおおおぉおおっ♡」

香織　「はぁっ…はぁっ…あ、目、目隠しが取れて…っ、え！？　ゆ、結衣！？」

結衣　「ごめんなさい、お母さん。私、小説のためにどうしても、３Ｐの体験がしたくて…」

香織　「そ、そんな…ど、どういうこと…」

結衣　「私、いつも先生にセックスのこと教えてもらってるの。おかげで小説も好評だし、もっともっとお勉強、頑張らないと！」

香織　「そ…そうなの…そうね…先生なら、安心ね…♡結衣のお勉強のお手伝いなら、私も頑張らなくちゃ…ね♡」

結衣　「お母さん、ありがとう！　じゃあ、先生、お願いします」

香織　「んっ、んほぉおおっ♡入ってきたわ♡先生のおちんぽ♡入ってきたのぉお♡」

結衣　「先生…んちゅっ…ちゅぷっ、ちゅるるっ」

香織　「結衣ぃ♡結衣もここ、とろとろになってるわ♡お母さんが気持ちよく、してあげるわね♡んちゅっ、れるれる、じゅるるるっ」

結衣　「んちゅ、ぷは、あひぁあっ♡お母さ、そんな、舌で、掻き混ぜないでぇえっ♡ひゃぁあん♡」

© 2017 survive. All rights reserved.

香織　「はふっ、んっんお゛っ♡じゅるるるっ♡んはぁあっ♡せ、せんせ♡すごいわ♡イイトコに擦れるのぉ♡」

結衣　「ひゃああん♡おか、さ…♡あんっ、ちゅるるっ、んんんっ」

香織　「ちゅちゅっ、んんっ♡んはっ♡結衣、ゆいぃ♡ごめんなさい♡お母さん、もぉ、い、イっちゃいそぉ♡ちゅるるるっ」

結衣　「んひぁあっ♡す、すっちゃらめぇえ♡結衣も、ゆいもイクぅううう♡イっひゃぅよぉ♡」

香織　「おほっぉおおおお゛っ♡」

結衣　「ひぁあああああっ♡」

結衣　「はぁっ…はぁっ…ねえ、お母さん…結衣も、先生のおちんぽ欲しくなっちゃった…」

香織　「わかってるわ…ほら、交替ね…♡結衣は勉強熱心で働き者で、とっても偉いわ♡ちゅぅっ♡ちゅるっ♡」

結衣　「んちゅっ、ぴちゅ♡ありがと、お母さん♡」

香織　「じゃあ先生♡私の娘の大事なおまんこ、たっぷり可愛がってあげてね♡」

結衣　「はぁっ♡お母さんのおまんこ…愛液と精液でいっぱぁい♡いただきまぁす♡じゅるっ、ちゅるるるっ♡」

© 2017 survive. All rights reserved.

香織　「んはぁあっ♡結衣、上手よぉ♡立派な作家さんになれるわ♡んほぉおおっ♡」

結衣　「んんっ、ひゃぁああっ♡入ってきたぁ♡へんへの、おひんぽ♡入ってきちゃったぁ♡んじゅっ♡ぢゅるるるっ♡」

香織　「んちゅっ♡ちゅるるるっ♡んほっ♡先生♡これからも娘によろしくご指導、あお〝っ♡お願い、しますぅううう♡」

結衣　「じゅるるるっんんんっ♡んごふっ♡お母さんのっ、愛液で、溺れちゃうよぉ♡ひあっあっあっ♡エッチなにおい♡おかひく、なりゅぅう♡さんぴー♡しゅごいのぉおおお♡」

香織　「ちゅっちゅぅううっ、じゅるる♡はぁっ、お〝っ、おほぉっ♡だめぇえっ♡また、またイっちゃうぅう♡ちゅるっ、ぢゅうううう♡」

結衣　「じゅぶっ、ごふごふっ、ごぼっ♡んひぃいいっ♡はげひっ、はげひぃいい♡いぐ、いぐいぐいぐぅう♡いぶぅうううううっ♡」

香織　「はぉおおおおぉお〝っ♡」

結衣　「ひぃあああああああっ♡」

香織　「お〝っ…んはぁっ…結衣…♡」

結衣　「あ、が…ぁ…お、おかあ、さぁん…♡」

© 2017 survive. All rights reserved.